

アナログアキュライザーの導入(20)

ー適用箇所の検討(16)ー

1. 始めに

前報(8)において、アナログアキュライザーの DA-3000 への適用について実施しました。今回も同様の方法ですが、再生対象を替えて試聴します。

2. アナログアキュライザーの試聴方法

アナログアキュライザー AACU-1000 を DA-3000 の再生に適用します。

再生経路は次のとおりです。

DMR-UBZ1 → 【S/PDIF】 → DACU-500 → Sonica DAC → 【RCA】 → AACU-1000
→ DA-3000 → 【SDIF】 → Brooklyn DAC+ → 【RCA】 → P&G フェーダー →
【RCA】 → しなの音蔵 300B シングル

Sonica DAC と DA-3000 は通常、バランス接続としていますが、前報(8)と同様、アンバランス接続のラインの DA-3000 側に AACU-1000 を装着します。また、Brooklyn DAC+ と DMR-UBZ1 は、Quantum Damping で覆います。



音源は、初期の DMR-BW830 以来、録り貯めてきた録画の BDR へのダビング盤の再生とします。

3. アナログアキュライザーの試聴結果

上記再生経路において、AACU-1000 の有無での音質を確認します。

ブルーレイレコーダーは DMR-BW830 の導入が始まりで、DMR-BZT910、DMR-BZT9000 を経由して、現在は DMR-UBZ1 に至っています。初期の頃は HDD 容量が少なく、外付け HDD へのダビングもできませんでしたので、その都度 BDR へのダビングを行っていました。これらの古い BDR を処分するかどうかの判断のために、今回上記のようなルートで再生してみました。

当時、音質評価のためにいろいろなメーカーと規格を替えた CDR をテストしており、中には再生できないものもありましたが、ほとんどのものは再生可能でした。

2009 年に DMR-BW830 で録画したものを数枚再生してみましたが、当時の記憶を頼りの音質をはるかに超え、現在でも十分鑑賞に堪えるレベルに達していることが分かりました。中には、懐かしいアバド指揮のルツェルン音楽祭の録画やムーティがウィーンフィルを率いて来日した時の公演の録画などもあり、捨てられそうにありません。

4. まとめ

DA-3000 のアンバランス接続の入力端子に AACU-1000 を装着した効果を認め、古いブルーレイレコーダーからのダビングした BDR の音質が、予想外に満足すべきレベルに達していることがわかりました。

以上